

創立50周年を祝して



草加市長 浅井 昌 志

草加市テニス協会がここに創立50周年を迎えられ、その歴史と伝統を記録する記念誌が刊行されることは、誠に喜ばしく、心よりお祝い申し上げます。

公益財団法人草加市体育協会の加盟団体である草加市テニス協会は、日本テニス協会・埼玉県テニス協会と連携を図り、主催大会の開催や、ジュニア・シニア選手を対象とした教室の実施など、本市におけるテニスの普及及び発展を担い、市民の皆さまにスポーツを普及する社会体育団体として、多大な貢献をされてまいりました。

また、テニス競技を通じて、個人の技術力向上を図るとともに、スポーツの楽しさを伝え、市民の健全な心と体を養うなど、本市のスポーツ振興に寄与していただいた、草加市テニス協会の皆さまに、改めて深く感謝を申し上げます。

創立50周年を迎える現在、草加市テニス協会が引き続き活発な活動をされていることは、長年にわたり、本市におけるテニスの普及・発展、そして生涯スポーツの振興に多大な貢献をされた歴代の会長及び役員の皆様のご尽力の賜物であると、深く敬意を表する次第でございます。

草加市では、平成26年9月に「草加市スポーツ・健康づくり都市宣言」を行い、スポーツを通じた心と体の健康づくりの推進に取り組んでおります。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向け、テニスを始めとしたスポーツ全般に関心が高まる中、本市といたしましても、生涯スポーツのさらなる普及やスポーツ実施率の向上を目指し、だれもが・いつでも・どこでも・いつまでもスポーツに取り組める環境づくりに引き続き努めてまいります。

草加市テニス協会の皆様には、今後も、テニスを通じて心と体の健康づくりを進め、さらに地域のつながりを強いものにしていただきますようお願い申し上げます。

結びに、創立50周年を契機に草加市テニス協会が更なるご発展をされ、草加から世界にはばたく選手が誕生し、また、子どもから高年者までますます多くの市民の皆様が、テニスに親しまれることをご祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

ごあいさつ



公益財団法人草加市体育協会
会長 谷古宇 勘 司

草加市テニス協会の創立50周年、心からお祝い申し上げます。

テニスは、紀元前からの宗教的な儀式を発祥として、エジプト、古代ギリシャやイスラム教、キリスト教を経てフランス宮廷で盛んになり、そしてイギリスにおいてはロイヤル・テニス、アメリカではコート・テニスと、今日のテニスが形づくられたという稀有の歴史を持つスポーツです。

草加市においては、石井守会長のもとに昭和44年に協会が創立され、多くのテニスを楽しむ人々の努力によって、今日まで発展してこられました。また石井会長は、草加市体育協会の会長として、スポーツを通じて市民の健康とふれあいに多大なるご貢献をいただきました。

私も公私ともにお世話になり、軽井沢のロイヤルガーデンテニスクラブにて終日テニス三昧、その後の飲みニケーションと、楽しい時を過ごした思い出があり、感謝しております。

時代を超え世代を超えて楽しまれてきたテニスが、昨今では、男子の錦織圭選手や女子の大坂なおみ選手の大活躍で、日本だけでなく世界からも注目され、2020年東京オリンピックを迎え、さらに市民の中にテニスブームとして盛り上がってくる絶好の機会です。

創立50周年の節目を迎え、今後も、新体制のもと協会役員の皆様が、テニスという素晴らしいスポーツを愛好する人々と共に、フィジカル（身体）とメンタル（心）を鍛え、その喜びを草加市民に広げ、テニスによって人生の喜びがさらに広がりますように願っております。

結びに、貴協会が今後ますます発展されますと共に、会員の皆様の更なるご活躍とご健勝を心より祈念申し上げまして、お祝いのご挨拶とさせていただきます。

「お祝い」



埼玉県テニス協会
会長 三戸一嘉

草加市テニス協会がここに創立 50 周年を迎えられますことをお慶び申し上げますと共に、貴協会の 50 周年の足跡を集大成した記念誌を発刊される事を心からお祝い申し上げます。

貴協会は、昭和 45 年に組織され、創立 30 周年事業として、世界で活躍された本市出身の兼城悦子さん（旧姓井上氏）、又、福井烈、田村伸也両氏を招いてのテニスクリニックを開催されたことを記憶しています。また、当地にある当時東洋一を誇った松原団地があり、そこでのジュニアスクールが埼玉県での始まりと聞いており、そこから世界的に活躍した選手が出た事は埼玉県テニス協会として大変誇りに思っています。

貴協会は早くから市営の素晴らしいコートを持ち、大会、行事等を活発に行われている事と思います。しかしながら社会情勢の変化もあり、会員数の減少が大きく、この対処に力を入れ、埼玉県テニス協会と連携し、今後更に発展出来るように努力して頂きたいと思えます。

最後にこの度の 50 周年を契機として、誰もが気軽に楽しく出来るテニスの有効性を発揮し、多くの愛好者を取り込み、健康の保持増進と共に、心豊かで活力のある市民育成にお力添えをお願い致します。この 50 周年の長い歴史を礎とし貴協会の益々の発展を祈念して、お祝いのご挨拶とさせていただきます。

創立50周年のお祝い



東部郡市テニス協議会 理事長
金子美津江

草加市テニス協会がこの度創立50周年を迎えられました事、心よりお喜び申し上げます。この長い50年の歴史の底に「テニスの普及」に拘わってきた方々の熱い想いを感じます。その想いが「テニスをやってみよう」と市民の心を動かし、今の発展に繋がっているものと思います。

東部郡市テニス協議会は、埼玉県テニス協会の傘下団体として11郡市（草加市・越谷市・春日部市・三郷市・幸手市・久喜市・白岡市郡・吉川市・北葛飾郡・蓮田市・八潮市）が加盟登録をし、2019年度の登録者数は4000名を超えます。草加市テニス協会の登録者数は760名で20%を占めております。

この数字に普及・発展を感じます。

現在、テニス人口は緩やかな減少傾向にあります、少子高齢化のなかスポーツの多様化があります。屋内競技でも、様々なスポーツが増えてきました。

テニスは陽の光や風など自然と拘わり、緊張感のなかゲームを組み立てます。

そしてそのまま集いが始まります。テニスは老若男女楽しめます、生涯スポーツとしても続けてほしいものです。

どうぞ今の発展をつづけていただきたいと思います。

東部郡市テニス協議会も草加市テニス協会に習い、普及・発展に力を注いでいきたいと思っております。どうぞこれからもお力添えをお願い致します。

最後に50年間という長い月日、草加市テニス協会の普及・発展にご尽力された関係者の皆様の熱意に敬意を表します。

そして今後も更なる発展をされるようご祈念申し上げます。

誠におめでとうございます。

50周年に思うこと

上 羅 廣

会員の減少と高齢化

40周年の時にもその兆しについては認識していたのであるが、その内容はますます激しくなっている。その兆しとは、①登録団体の減少、②登録者数の減少、③試合への参加者数が激減しているのである。平成17年と令和元年とで比較すると、①の登録団体数は73から45に、②の登録者数では1773から779に、③の試合への参加者数ではどの大会も減っているのだが、例えば春の選手権大会で単男女では369人の参加だったのが、141人まで減少し、複でも403組の参加から151組まで減っているのである。他の大会でもミックスマも222組出場していたのが、75組まで減っているのである。

特に①と②に関しては、獨協大学のテニスに関係するサークルが草加市テニス協会に登録しなくなるということから始まった。急にどうしたのだろうか、学生が出場できる大会が少ないからか、などいろいろ憶測するも正確な理由は今でもわかっていない。

そして、今年、宇田川理事長が作成してくれた会員の年代別構成表を見て、愕然とする。

50歳代から70歳代の会員が全体の56%を占めていることが示されたのである。学生がいなくなったので全体に高齢化していることは漠然とわかっていた。また、確かに、30歳からテニスを始めサークルに入り、仲間はみんな若かった。今、同じサークルに若者は少ない。それぞれのサークルも高齢化しているのである。

また、同時に役員たちも同じように高齢化している。10年、20年役員を続けている者も多い。

人事の刷新と若い発想

今、世間ではスポーツ団体の運営において、不祥事が多い。

ワンマンな運営、非民主的な運営、枚挙にいとまはない。

今、スポーツ団体の運営に関しては、ガバナンスが問題にされ、コンプライアンスを大切に、インテグリティのもとに運営することが唱えられている。

草加市テニス協会はこの点に関してどうであったのか。話し合いの下で運営がなされてきたことは間違いない。正直に運営がなされてきた。

しかし、宇田川さんが理事長になり、上羅が副会長に就任したのは1986年。33年も経つのである。2004年から上羅は会長になっているから、15年も経つ。上記のような問題に場当たり的に対処してきたが、改善の兆しはない。

総会が終わらないと何とも言えないが、理事会で述べたように、この辺で人事を刷新して、若い人に中心になってもらい、若い人たちの発想で現状に立ち向かってもらいたいと思う。

同様に役員の交代も大事である。

何かここで私がいろいろなことについて言及すると、若い人たちはやりにくいだろう。ただ、昔の活況を取り戻そうとはしないで、現状に即したテニス協会の運営を自由に目指してほしいと思う。

支えるスポーツだから、誠意をもって謙虚に立ち振る舞うことが大切です。

テニスによる生涯スポーツ実践者表彰

テニスは生涯スポーツとして有効なスポーツだと言われてきた。35歳から5歳刻みで県大会、全日本とつながっている。競技スポーツを目指さなくても、身近で仲間とコミュニケーションを取りながら楽しくボールを追いかけることができる。コートに出てくるから、普段は走らないけど、ボールを追って走ることになる。

80歳を過ぎて、コートに出てテニスをやっている人を昔から尊敬していた。リスペクトの対象だった。

50周年という節目に、テニスをしている生涯スポーツの実践プレイヤーをぜひ表彰したいと思う。

草加市内から二名の申請が出された。

鬼武澄子 82歳

北神トミ子 81歳

お二人を心より、リスペクトし、ここにテニスによる生涯スポーツ実践プレイヤーとして表彰いたします。

さいごに

テニス人口の減少の話は県内のあちこちで聞く。県内ばかりか全国の各地方からそんな話が聞こえてくる。少子高齢社会が現出し、人口減少が指摘される中、当然テニス人口の減少も生じてくるのは仕方ないことか。

しかし、一方で小さな子どもを含んだ家族でテニスに興ずる集団や、親子でテニスをする姿、各郡市テニス協会で開催しているジュニアのテニス教室など新しいテニス愛好者の育成には各方面の人たちが関わっている。

テニスの楽しさを子どもたちに伝えていくこと、運動としてのテニスの面白さを子どもたちにも感じてもらうこと、新しい技術を身に着ける喜びを発見してもらうこと、テニスを通して健康な心身を育てることができることなどを大切にすることなど、そうした子どもたちがテニスを続けてくれればとも思う。

自分自身がテニスを始めたことによって教えられたことが多いことに感謝しつつ50周年をささやかに祝いたいと思います。